

唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画第1回策定推進委員会 会議録(要旨)

○開催日時

令和5年2月20日(月) 午後1時30分～午後3時30分

○開催場所

唐津市役所大会議室(本庁4階)

○出席委員

松尾委員(会長)／宮崎委員／佐々木委員／安岡委員(副会長)／山口(恭弘)委員／金嶽委員／井田委員／内山委員／峯委員／大木委員／中島委員／谷口委員(本人欠席。代理(オオヤ氏)出席あり)／松下委員／山口(ひろみ)委員／中村委員／前田委員／坂田委員 ※名簿順

○資料

- (資料1) 唐津市地域福祉計画策定推進委員会委員名簿
- (資料2) 唐津市保健福祉部職員名簿／唐津市社会福祉協議会職員名簿
- (資料3) 唐津市地域福祉計画策定推進委員会設置要綱／唐津市地域福祉活動計画策定推進委員会設置要綱
- (資料4) 唐津市地域福祉計画・唐津市地域福祉活動計画策定方針
- (資料4-1) 「地域福祉計画」と「地域福祉活動計画」の一体的な策定について
- (資料5) 第4期唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定業務スケジュール(案)
- (資料6) 第4期唐津市地域福祉計画 唐津市地域福祉活動計画 第1回策定推進委員会資料
- (資料7) 当日配付:「福祉を考える会」実施概要(案)／「福祉を考える会」実施イメージ
- (資料8) 当日配付:第3期唐津市地域福祉計画 基本目標ごとの達成度状況

○内容(要旨)

<開始前、アイスブレイクとして簡単ストレッチを実施>

<開会>

<委嘱状交付>

<市長あいさつ>

市長公務のため副市長によるあいさつ

<唐津市社会福祉協議会会長あいさつ>

<委員の紹介>

資料1により事務局より紹介

<保健福祉部職員及び唐津市社会福祉協議会職員の紹介>

資料2により事務局より紹介

<協議事項>

(1)唐津市地域福祉計画策定推進委員会設置要綱及び唐津市地域福祉活動計画策定推進委員会設置要綱

資料3により事務局より説明

(2)会長及び副会長の選出について

委員より「事務局一任」の声あり。事務局案として会長に松尾委員、副会長に安岡委員を推薦。委員異議なし。会長、副会長は会長席、副会長席へ移動。

(3)会長あいさつ

(会長)自分はこれまでも市の福祉には関わりがあったが、身体障がい者のリハビリ施設等を経て現在のKT福祉環境研究所代表となるまでの間、約1万人の障がい者と交流があった。その経験を生かしたい。会議では発言しやすい雰囲気づくりにも努めたい。よろしくお願いいたします。

会長が副会長の挨拶を促す

(副会長)社会福祉について詳しくはないが、皆さんとともに勉強努力して務めたいと思う。よろしくお願いいたします。

以降、会長により進行

(4)計画策定方針説明

資料4、資料4-1により事務局より説明

(5)策定スケジュールについて

資料5により事務局より説明

【質疑】

(中島委員) 前回、前々回も委員として参加している。国による自治体の地域福祉計画策定状況のホームページを見たところ、唐津市は計画を策定したが、生活困窮者についてと、包括的支援体制の整備状況について盛り込むという2つの項目に○がついてなかった。

(事務局) 生活困窮者は包括的支援に含まれ、もう一つ相談の体制整備という2つ

に唐津市は○がついていなかった。国のいつの調査だったか今ここではわからないが。

(中島委員) 令和3年4月1日時点の調査だった。これは現行の計画の中で位置づけがされていないということであるため、第4期に向けてはこの項目が盛り込めるように「福祉を考える会」でも取り上げていきたいと思う。

(事務局) 地域福祉計画での住民に身近な圏域ということでは、社会福祉協議会による地域福祉活動計画で4か所の地区として組み込まれてはいた。制度の狭間についても同様。住民の身近な圏域においての問題をどう網羅するかが、国による調査に反映されていなかった。実際には住民の身近なところに対する生活体制整備支援事業として地域福祉活動計画において4地区で事業展開されているが、これが国のアンケートにうまく反映できていなかったものとする。今回、2つの計画が一体的に策定となるので、よりわかりやすくなるよう作っていけると思う。

(中島委員) 今度の計画では2項目とも○になると考えてよいか。

(事務局) 福祉分野を重層的に網羅する「福祉を考える会」で討議していく予定である。

(会 長) 国によるアンケートなどなかなか見る機会はないため、貴重なご意見だった。一体化な計画策定により網羅されるとの事務局回答であった。

(6) 計画策定の趣旨等について

資料6により事務局より説明

「唐津市地域福祉に関する市民意識調査」「唐津市地域福祉計画 分野別課題調査」の結果概要についてスライドを用いて説明

【質疑】

(坂田委員) 分野別課題調査(児童福祉・子育て支援分野)の質問文に「母子家庭」「父子家庭」という表現があるが、これからは「ひとり親」とした方がよい。

(坂田委員) 分野別課題調査(高齢者福祉・介護分野)の問1、これまでの取り組みについての「⑦安全・安心の生活を確保しよう」の例示では、消費者行政に関わること、詐欺被害などの例示があるとよかった。市の総合計画でも災害時の対応は記載があるが、防犯に関して消費者行政に関するものが抜けているように思う。今後必要だと思う。

(会 長) 今期、アンケートをとることはもうないと思うが、どうか。

(事務局) 今回はもうアンケートはない。次回以降のアンケートでは今のご意見を反映して考えたい。

(坂田委員) 第3期地域福祉計画の50ページに消費者トラブル防止について、地域福祉活動計画では112ページにも悪質商法や特殊詐欺の記載がある。前回の計画記載内容も盛り込んで次の計画に反映していただくとよい。

(会 長) これは取りこぼしともいえるものであり、今後必ず反映をしてもらいたい。

(中島委員) 市民意識調査とか団体調査が計画策定では最も大事だと思う。前回、前々

回、計画そのものを形骸化させないための検証体制をお願いし、その中で新しい取り組みも出てきている。調査も形骸化させてはいけない。調査にあたり、内容について委員の意見を求めるなど必要。調査内容は委員も考えないといけない。我々がまじめに考えなければならない。そうやってよりよい調査に向上させて、計画も向上させていくべきである。調査の前段階からの市民や委員の意見を聞くことが必要である。

(会長) 今回実施された調査でこれからは計画を作っていくので、計画策定の段階で今いただいた意見や漏れたところなどを反映していくようにしたい。今回調査について、それはそれでよくやったと思う。

(副会長) 調査概要で、市民2,000名にお願いして32.9%の回収とあるが、それで市民の意見としてよいのだろうか。32%の回答を市民の意見としてよいのか疑問。もっと回答者(回収率)を上げるようにすべきではないか。

(会長) アンケート調査の回収率としてこれは普通、そこは言うておく。調査での取りこぼしなども必ずあるものだが、そういったところは計画策定の段階で反映していくことができる。皆さんしっかりと回答を書いてきてくれている。自由意見には重要、参考になるものがたくさんあるので委員もぜひ目を通してほしい。ただ、これはあくまで一般の方の意見。当事者、障がい者であり高齢者でもある自分から見ると、物足りなさを感じる場所もあった。障害を持って生活をしていると、何もできない人かのような扱いを受けることがありましたが、障がい者・児は、環境によって能力を出せる人がいっぱいいる。そういった、活躍できる環境づくりについて計画でも力を入れてほしい。

(山口ひろみ委員) 令和4年6月に児童福祉法の改正があり、これからの問題として児童虐待、権利擁護などが大きく入れられている。こういった言葉、虐待や子どもの権利といった言葉も入れてほしい。

(井田委員) アンケートの項目について、国が示す設問というものはあるのか。

(事務局) 介護保険事業計画や子ども・子育て支援事業計画では国の設定による全国統一の設問があるが、地域福祉計画の調査ではそういったものはない。

(事務局) 今回調査にあたり、前回唐津市で実施した調査項目はまずベースとしている。

(井田委員) ヤングケアラーに関する設問があったが、これは今回追加したものか。

(事務局) そうである。

(井田委員) 先日、佐賀新聞にも不登校についての報道があった。そういった問題も今回は加わることはないかと思う。課題として反映していただいたい。

(前田委員) 当協会(佐賀県看護協会)では、2025年問題、2030年問題を注視している。医療関係機関の役割の明確化、圏域をまたぐ取り組みなど進めているところ。アンケート調査でも、介護が必要になっても身近な地域で過ごせるまちがよいという意見が52%くらいある。コロナ禍も3年続き、高齢者からは外に出ない、出られないという声もよく聞く。看取りについて、在

宅時の救急車要請についてなど、市民が自分のこととして考えてくれるような情報発信があるとよいと思う。

(7) 福祉を考える会の設置について

資料7により事務局より説明

【質疑】

(山口ひろみ委員) アンケート結果概要で、福祉への関心がない、若い世代の関心が薄いとの報告もあった。以前からの課題であると思うが、どこかで高校生が考える機会、きっかけを作ってもらえればと思う。若い世代で、学生のうちから福祉を知る、理解するというきっかけを作ることは大事だと思うし、市の高校生はいろいろな地域活動もしてくれている。福祉を考える会に入らないにしても、福祉に関われるきっかけになるとよい。

(事務局) 福祉を考える会に高校生を、という観点は重要と思う。福祉を学ぶ大学生と市内の高校生の話し合いの場など、次年度の後半で作れないかと考えているところ。

(山口ひろみ委員) 資料6の18ページには、ひとり親世帯数が減少傾向との説明がある。これを重く見るか軽く見るか。ひとり親世帯で正規雇用、パート勤務がどうなのか、収入はどうか、ダブルワーク、トリプルワークはどうかといった細かな分析があると施策に反映しやすいと思う。

(事務局) 今回策定する計画は各分野の福祉計画のマスタープランと言えるものと考えている。そのマスタープランに沿って各個別計画で詳細や実態把握などを行っていくことと考える。本計画は全体・俯瞰的に物事を捉えていくものとなるので、その点をご理解をいただきたい。

(中島委員) 平成30年の会議録を見ると、福祉を考える会に高校生を、と意見があった。

(事務局) 承知しており、それもあって高校生を交える場づくりを今回検討したい。福祉を考える会という大人の中に高校生を参加させるのではなく、若年の会を別個に設けてこの委員会で両方を報告し討議したいと考える。

(中島委員) 生活困窮者に関するボリュームが少ないと感じている。そういう方の意見を聞いたり、生活困窮者に関することについて多くの方の意見を聞いてたりしてほしい。私どもの代表者を福祉を考える会に是非入れてほしい。

(事務局) 福祉を考える会では、メンバーの方には資料提供などを行うが、本委員会の委員にもご案内を行うので、できるだけオブザーバー参加をいただくとありがたい。

(会 長) 高校生はずっと子どもということではない。選挙権も18歳から。高校生への教育の一環としてもそういった協議の場に参加することは大事と思う。日本の高校生は海外の学生と違って、レポートはしっかり書けるものの意見を言うことがなかなかできない。計画づくりがこういったことにも寄与できるとよい。

(8) 第3期唐津市地域福祉計画の進捗状況報告

資料8により事務局より説明

【質疑】

(中島委員) この資料8は、計画を作った次までの5年間にどの程度向上したか確認する必要があるだろうと、前回計画の委員会の最後に言って作ってもらったものである。委員各位にぜひ内容を見てもらいたいし、各分野の基本計画や実施計画のような資料を委員に送ってもらい、それも併せて確認できるようにしてもらえるとよい。

(事務局) 各個別計画の資料がほしいということであった。中島委員には最新版をお送りする。大量の資料となるので、他の委員でもご希望の方に提供させていただくので仰ってください。

(会 長) 人間は忘れるものであるが、前回計画でやったことや今回の意見などを確実に押さえていけば、自ずとよい計画づくりが進んでいくものと思う。他に意見などはあるか。

(特になし)

進行、事務局に

(9) 次回開催日程について

(事務局) 次回は次年度、7月を想定。福祉を考える会の進捗を見ながら改めてご案内する。

※終了後

(井田委員) 本日配付されているカラーの資料について説明を。

(事務局) 委員配付資料である。

(谷口委員) (代理) 当方資料である。次回など機会あれば説明したい。

以上